

資料－1

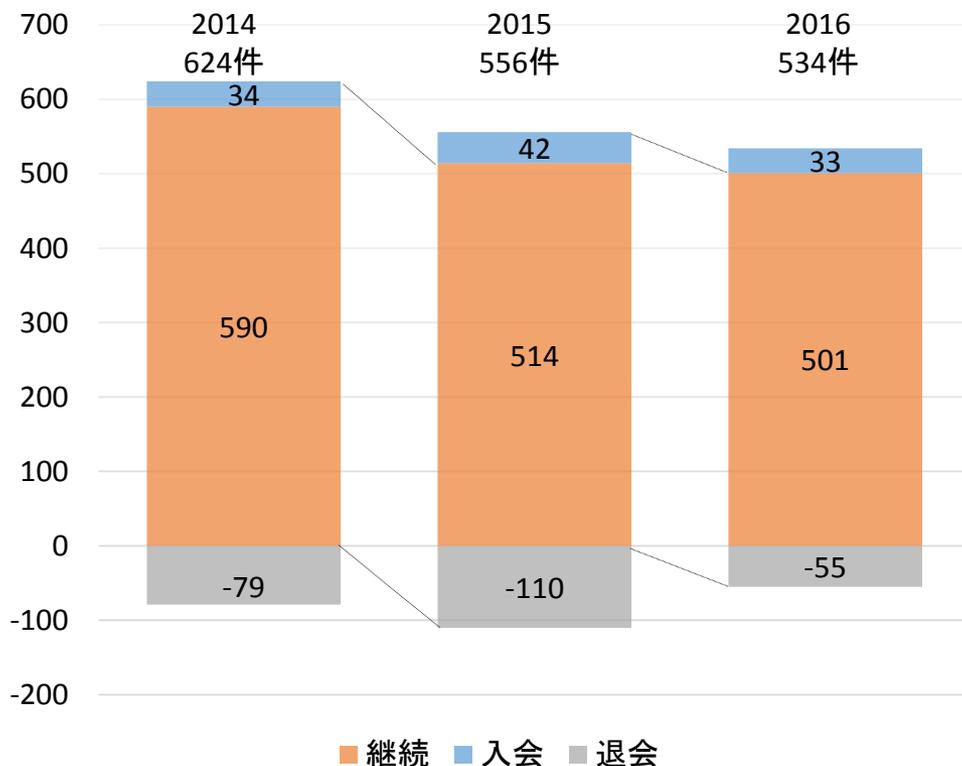
Non-Profit Organization
Woods and Environment Network
Association

2017年度 総会資料
Annual Report 2017

2017年6月
特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会

2015年度会員登録数	計556件
個人・家族会員	490件
賛助・学生会員	30件
企業・団体会員	36件

2016年度会員登録数	計534件
個人・家族会員	466件
賛助・学生会員	34件
企業・団体会員	34件



会員数は、前年度より減少傾向にあります。主な要因として、新規会員の獲得が不十分であること、会員の高齢化に伴う退会数の増加等が想定されます。普及啓発に注力するため、広報活動の一層の努力が必要と考えられます。

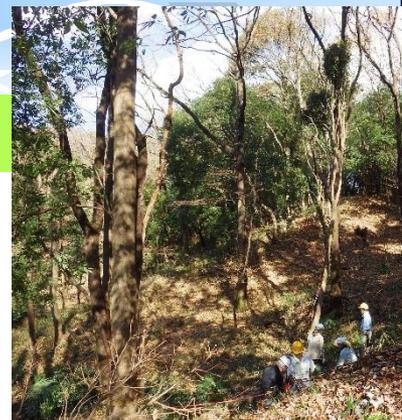
フィールド

13箇所のフィールドでの保全活動を推進。二宮フィールドは新エリアでの新たな活動の展開、武蔵野の森での観察会の新規実施など、活動内容について、新たな変化や展開があった年でした。
特に今年はグリーンセイバー検定合格者のフィールド活動への参加が例年より多かった1年でした。



町田・三輪里山

不法投棄物の撤去を引き続き行い完了することができました。近隣の方々が林内散策や動植物の観察に訪れる様子をたびたび見かけます。ボランティアメンバーも近隣の方が徐々に増えつつあります。



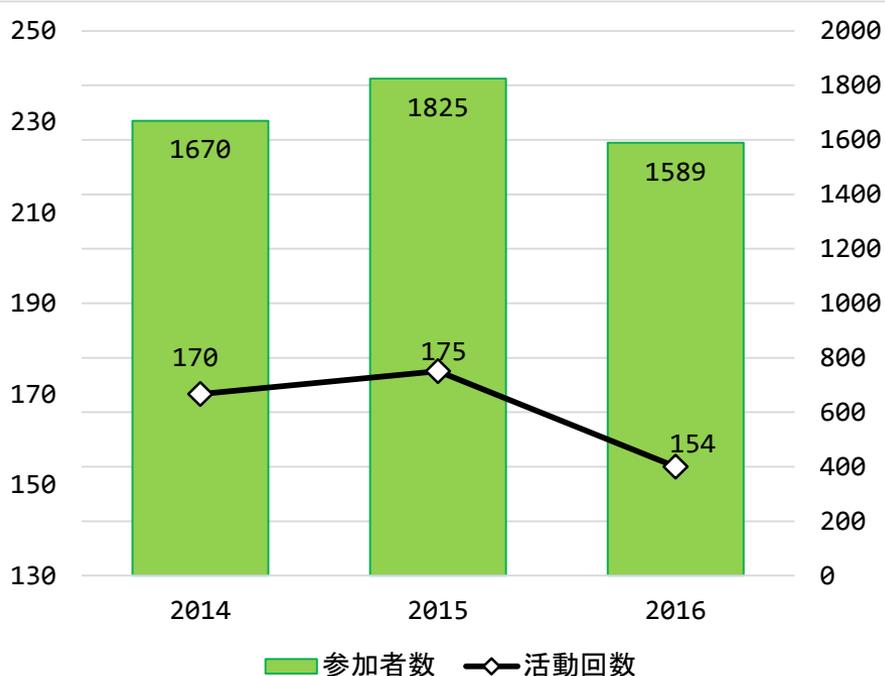
二宮フィールド

これまでの場所から活動場所を移し、心機一転、新しいステージでスタートしました。関係近隣住民との良好な交流・コミュニケーションを図り、地元からの参加やPR協力を得て、地元の認知が高まりました。



交野南星台フィールド

法人の活動受け入れも行き、活発な活動を行っています。隣接するケアハウスの入居者とも交流することができ、地域交流にも積極的です。シイタケの収穫など今後も交流を深める活動が期待できます。



グリーンセイバー事業

H28報告3

自ら動き出したグリーンセイバーのみなさんとともに新しいものを創り出す

グリーンセイバー企画の新しい展開

グリーンセイバーのみなさんからの新たな提案が大きく実を結んだ一年でした。グリーンセイバーの新しい社会貢献のひとつの姿とし、全面的にサポートを行いました。

- ◆学校林を活かした環境学習プログラム
自由学園の高校部の学生を対象に計画づくりを開始。
- ◆フィールドの実践講座
フィールドを活用した里山保全の基本的技術を身につける講座の提案があり準備を開始。助成金も取得、2017年度より新講座として開始。【町田・里山林塾】
- ◆新たな人材育成プログラム
日本シェアリングネイチャー協会とのコラボレーション企画。互いの強みを持ち寄り、準備を開始。

グリーンセイバー検定の広報展開

◆無料ガイダンス

グリーンセイバーの活動と検定について多くの人に知ってもらうために始めた無料ガイダンスは今回4回目を迎えました。今回は東京、大阪に加え、初めて埼玉で開催しました。

◆マスコミからの発信

三輪フィールドにおいてラジオ局ベイエフエムの取材を受け、グリーンセイバーの活動と検定のPRをしました。

◆SNSによる発信

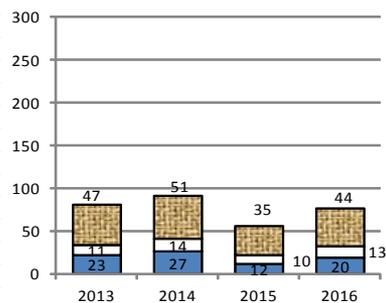
新しいグリーンセイバーのみなさんが、ご自分のSNSやHPで活動や検定について紹介いただき、それを見て参加くださる方も増えてきました。

グリーンセイバー検定見直し

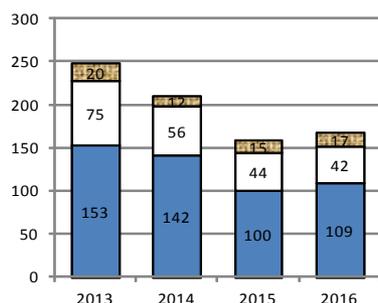
・グリーンセイバー受験者数の低迷を背景に、グリーンセイバー検定事業の見直しを2014年から開始。関係者への意見収集、事務局内での方向性の議論を経て、新しい課程として人と自然のかかわりに関心を持つ人のすそ野を広げることを目指し、GS I (仮称)を立ち上げることが決まりました。主に身近な暮らしや生活のなかから、自然とのつながりを知ることのできる内容として進めています。



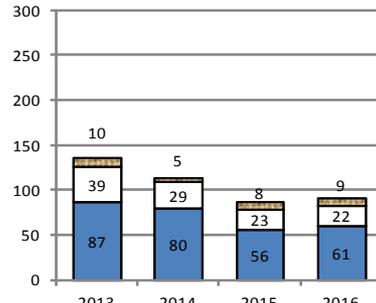
セミナー受講者



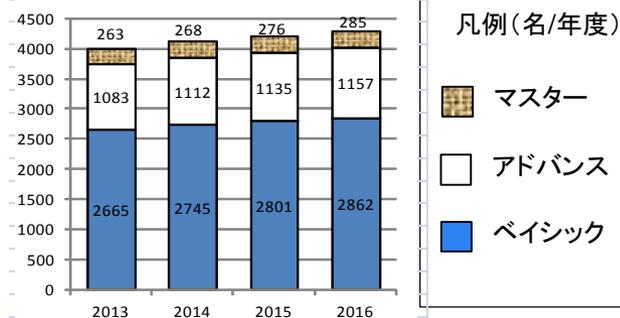
検定受験者



合格者



グリーンセイバー数(累計)



多様な主体との協働事業

H28報告4

海の森(東京都・多様な主体との連携)

- ・今年も引き続き、東京都から委託を受け、海の森 公園ボランティアの指導を実施。将来海の森公園開園時に、現ボランティアが指導者として活躍するための技術や知識の習得を目指して指導育成しています。
- ・海の森倶楽部会員が展開する環境活動について、助言を行いながら、協働事業として展開しました。
- ・独自の事業として今年も「海の森あおぞらレンジャー2016秋」を実施し、親子向け環境活動を実施。生憎の雨でしたが80名が参加し、生きもの観察や育樹活動を通じ環境保全の重要性を体感しました。
- ・海の森あおぞらフェスタ2016(7/16,17,23,24)
- ・海の森あおぞらレンジャー2016秋(9/19)



企業との協働活動

今年には以下に示す各種活動を実施しました。

- ◆新規事業
 - ・グリー： 育樹体験の協働活動(海の森)
 - ・伊藤忠商事： MOTTAINAIキャンペーン
(多摩動物公園での森づくり)
 - ・三菱電機： 育樹活動の指導(海の森) 他
- ◆継続事業
 - ・セキスイハイムグループ： TAMAZOでの保全活動
 - ・新生フィナンシャル： 南星台・TAMAZOでの保全活動
 - ・ローソン： TAMAZO、海の森での保全活動
 - ・東京ガス： 工場緑地の生態系調査
 - ・凸版印刷： 工場での緑地整備体験
 - ・東京ガスコミュニケーションズ： わたしの森プロジェクト
 - ・日水コン： 小学校での水質調査学習(環境教育)
 - ・KDDI： タブレットを活用した環境教育プログラム 他

港区立エコプラザ

港区立エコプラザ主催の講座を企画運営。2016年度は、学習院大学・日本環境教育学会会長諏訪先生をお招きし、環境教育に関わる方を対象にアクティブラーニングの基礎講座を実施しました。



情報発信と共有

H28報告5

聚レターの充実

「顔の見える活動報告」をコンセプトに、活動への思いをじっくり語っていただく企画を継続。掲載後1年以上たったものはネット上でも公開し、より多くの人に読んでいただけるようにしています。また、当協会のサポート企業の事業を通して、森や環境に関する話題を紹介する協賛コラム「ビジネスのヒントは森の中にある」、一般会員からは見えにくい事業を紹介する「事務局の隠れた仕事」など、新たな企画をスタート。常に新鮮な話題を提供し、遠

「ビジネスのチャンスは森の中にある」



高の切れ味を実現した「シルキーナツ」の両刃などが、多くの現場で活躍しています。誰もが安全に効率よく作業するための「森のユニバーサルデザイン」。そのニーズは、今後ますます高くなるでしょう。

森のユニバーサルデザイン
サウスポー、レフティも扱われる左利き、サウスポーとは大リーグで生まれたことばで、アリ

森の防災倉庫に保管され、次の出番は防災訓練。避難場所に指定された公園で、吹き出しの練習を兼ねて住民同士が交流をはかります。かっぱ備道具の高橋総本店さんで取っているお祭り用品のいくつかは、お祭りを通じて地域コミュニティの再生に貢献すると同時に、防災用品としても活躍しているのです。

日々の暮らしに集落の協力が不可欠だった時代とは違い、普段はほどこい距離を保ちながら、何かあった時は助け合いたいというのが今どきの地域コミュニティ。鎮守の森はカタチを変えて、今も人々を見守っているのです。

お祭りがつくるコミュニティ
村はずれの丘の上にある鎮守の森。ひと際高い御神木には集落を見守る神様が宿り、人々は日々の安全や豊作を願ってお参りし、収穫を祝ってお祭りをおこなっていました。こうした光景は経済成長期の宅地開発とともに失われ、地域のつながりも希薄になったと思われましたが、今あらためてその役割が見直されています。いざというとき頼りになるのは地域のチカラ。人々がそう認識したのは、震災がきっかけでした。

当協会のサポート企業を取材し、ビジネストレンドと森や環境との意外な結びつきをご紹介します。今回ご協力いただいたのは…

人と環境に優しい「シルキー」を作り続ける株式会社ユーエム工業
TEL. 0794-63-6111
https://www.silky.jp

▲ユーエム工業様
高橋総本店様▶

かっぱ備道具で4つの専門店を展開
高橋総本店
TEL. 03-3845-1111 <http://www.takao.jp/>
mail: yokoso@takao.jp

方にお住まいなどで活動に参加する機会が得にくい会員の方にもご満足いただける会報誌を目指しています。

ネットでの情報発信

引き続きHP、ブログ、facebook、twitter、メールマガジンなどを活用。「申込みフォーム」をまとめてトップページにバナーを貼るなど、使いにくさを解消するための変更を随時加える他、スマホ対応も含めた全面リニューアルも進行中です。

ご支援につながる仕掛けづくり

毎日「応援する」をクリックしていただくだけで、支援企業からの支援金が届く寄付サイト「gooddo」を活用。毎週コンスタントに10000ポイントをクリアし、年間5～6万の支援金が届くようになりました。また、1000円以上のご寄付をいただいた方には、町田フィールドの間伐材で作ったバッジをプレゼントする「里山応援キャンペーン」を実施。当協会の活動への関心を高め、ご支援につながる仕掛けづくりに力を入れました。



2016年度 財務報告

収支報告書

◆収入の部

項目	2015年度実績	2016年度実績	主な活動
会費収入	3,576,000	3,948,000	個人、家族、団体、法人、学生、賛助
寄付収入	4,781,406	2,293,169	個人寄付、あさひアセット、KDDI、20周年記念行事 等
事業収入	25,839,085	23,475,650	
グリーンセイバー事業	3,019,472	3,073,388	グリーンセイバー検定、セミナー、グリーンセイバーによる活動収入
環境コミュニケーション事業	7,361,640	8,264,101	企業との共同活動、学校の授業支援活動
フィールド事業	8,420,267	6,550,305	フィールド活動による収入、企業のCSR活動等でのフィールドでの活動受入れ
海の森事業	7,037,706	5,587,856	海の森倶楽部、海の森公園ボランティア、特別公開イベント等
その他収益	10,491	58,154	利息、雑収入
収入計	¥34,207,482	¥29,774,973	

◆支出の部

項目	2015年度実績	2016年度実績	主な活動
総務・管理費	2,671,825	2,341,235	ミーティング、総会 他
人件費		1,367,703	
事業支出		973,532	
広報	2,629,567	2,412,139	会報誌(印刷製本費、通信運搬費)
人件費		1,536,230	
事業支出		875,909	
グリーンセイバー事業	4,892,665	3,311,943	グリーンセイバー検定、セミナー、グリーンセイバーによる活動、子どもワクワクプロジェクト
人件費	1,509,929	1,323,933	
事業支出	3,382,736	1,988,010	
環境コミュニケーション事業	6,051,328	6,950,762	企業との共同活動、学校の授業支援活動
人件費	1,870,976	2,652,125	
事業支出	4,180,352	4,298,637	
フィールド事業	6,711,561	6,693,696	フィールド活動、企業のCSR活動対応
人件費	1,686,454	1,403,302	
事業支出	5,025,107	5,290,394	
海の森事業	10,796,442	5,301,347	海の森倶楽部、海の森公園ボランティア、特別公開経費等
人件費	5,373,045	2,512,518	
事業支出	5,423,397	2,788,829	
期首棚卸高	233,252	0	
期末棚卸高	0	0	
住民税・事業税	150,000	150,000	
支出計	¥34,136,639	¥27,161,122	

注：事業支出について 全事業共通経費は、配分率を決めて直接費に合算して計上しています。

前期繰越正味財産	4,187,276	4,258,119
当期正味財産増減額	70,843	2,613,851
正味財産合計	¥4,258,119	¥6,871,970

成果報告書

成果については、1～4ページをご覧ください。

※この成果報告書は吉田寛氏の「公会計における財務諸表利用者としての納税者」

『(国府台経済研究第13巻第1号)』に掲載された表示形式を利用しています。

H28報告7

《コスト説明の部》

発生費用の部:活動のためにかかった費用		非営利活動	収益事業	合計
事業費	総務・管理費	¥2,341,235		
	広報事業費	¥2,412,139		
	グリーンセイバー事業	¥3,311,943		
	環境コミュニケーション事業	¥6,950,762		
	フィールド活動事業	¥6,693,696		
	海の森関連事業	¥5,301,347		
税金	住民税・事業税	¥150,000		
棚卸高	期首商品棚卸高		¥0	
	期末商品棚卸高		¥0	
	発生費用合計	¥27,161,122	¥0	¥27,161,122
費用負担の部:その費用は以下のように負担しました		非営利活動	収益事業	合計
受取会費	会費負担分	¥3,948,000		
受取寄付金		¥2,293,169		
事業収入	グリーンセイバー事業	¥3,073,388		
	環境コミュニケーション事業	¥8,264,101		
	フィールド活動事業	¥6,550,305		
	海の森関連事業	¥5,587,856		
事業外収入	受取利息・雑収入	¥58,154		
	費用負担額合計	¥29,774,973	¥0	¥29,774,973
	当期正味財産増減額	¥2,613,851	¥0	¥2,613,851

1) 助成金取得実績: 国土緑化推進機構(1,811,867)、セブンイレブン記念財団(1,042,476)

2) 寄付金内訳: 朝日ライフアセットメント(700,000)、伊藤忠商事(株)住宅エコポイント(130,059) 他

貸借対照表

H28報告8

(単位 :円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	244,284	未払金	1,754,090
普通預金	4,135,974	前受金	2,646,800
郵便振替口座	556,586	預り金	70,633
未収金	5,834,527	仮受金	107,800
前払費用	127,872	流動負債合計	4,579,323
流動資産合計	10,899,243	2 固定負債	0
2 固定資産		負債合計	4,579,323
有形固定資産			
車両・運搬具	453,600	III 正味財産の部	
減価償却累計額	△ 330,750	前期繰越正味財産	4,258,119
有形固定資産合計	122,850	当期正味財産増減額	2,613,851
無形固定資産		正味財産合計	6,871,970
商標権	74,000		
敷金	355,200		
無形固定資産合計	429,200		
固定資産計	552,050		
資産の部合計	11,451,293	負債・正味財産の部合計	11,451,293

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会の
2016年度決算について監査の結果、事業報告は事業の内
容を適切に反映していると認めます。

2017年 5月12日

特定非営利活動法人
樹木・環境ネットワーク協会

監事 三尾隆志 

三尾 隆 志

監事 吉田 寛 

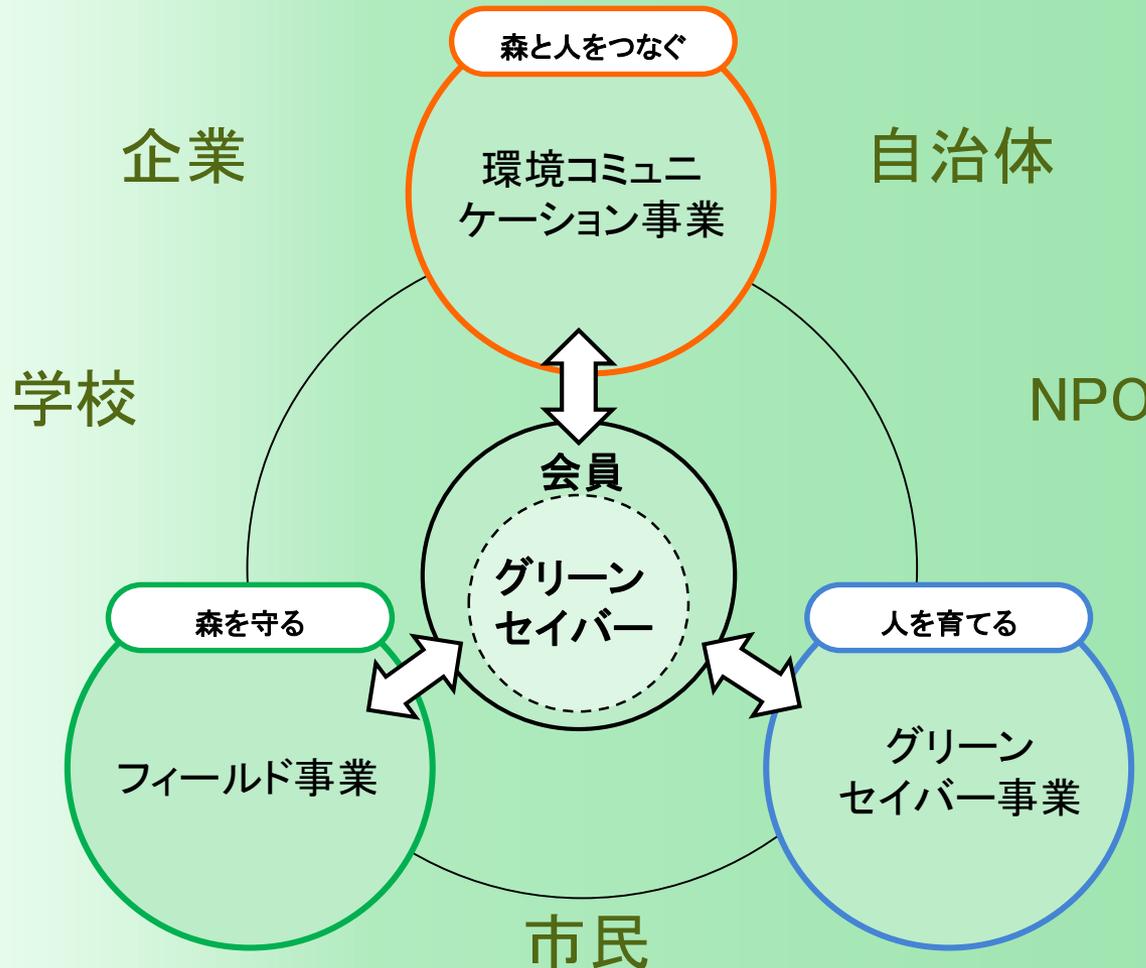
吉 田 寛

2017年度活動基本方針

会員・グリーンセイバーがより主体となる活動へ

目標指向型から共感支援型へ

会員・グリーンセイバーとともに、多くの人や団体が自然体で仲間に入ることができるような場を創出し、新しいコミュニティづくりにつなげるプラットフォームとして地道な活動を推進します。



『人と自然が調和する
持続可能な社会』

グリーンセイバー事業

○グリーンセイバー企画 ○検定事業

「人を育てる」活動の柱として、グリーンセイバー事業に力を入れます。また、この活動を広げるための新しいグリーンセイバー検定の体系をつくります。

グリーンセイバーの主体的な活動の支援

・グリーンセイバーと事務局がアイデアを共有・討議をし、グリーンセイバーの自主的・主体的な活動がより活発となるよう支援します。

<現在取組中の例>

- 学校の学習支援 …自由学園 学校林の活用
- 里山保全連続講座 …町田・三輪フィールドでの里山林塾
- 他団体とのコラボレーション企画
…日本シェアリングネイチャー協会

グリーンセイバー検定の見直し

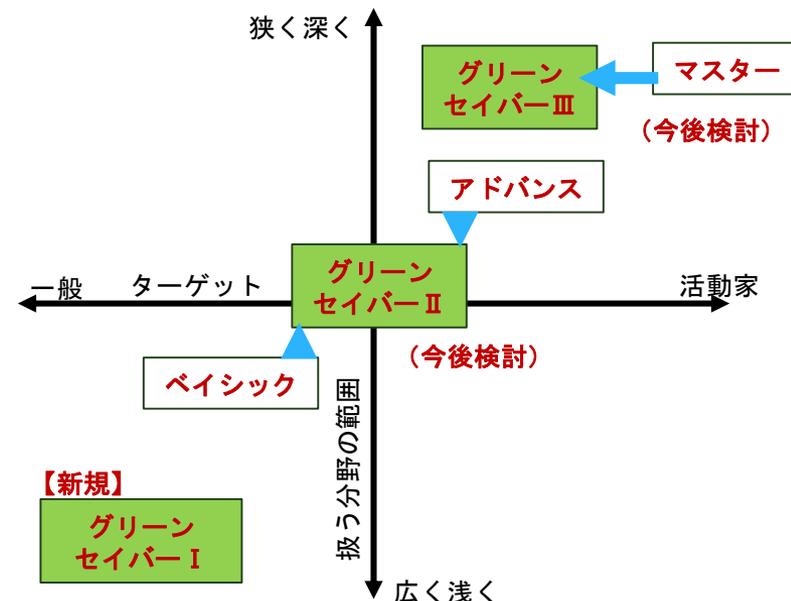
・GS I (補足参照)はテキストの作成、実施形態の検討、試行を2017年度に行います。GS II、IIIの検討及び開発を2018年度に開始します。

・従来の検定は来年度(2018年)まで継続しますが、新旧検定との関係・位置づけの整理などについては2018年度検討する予定です。

※GSはグリーンセイバーの略称です

補足：GS I (仮称)について

- ・GS Iのターゲットは一般の人々です。幅広い年齢層、さまざまな社会的立場にある人々を対象としています。
- ・GS Iは入口に該当し、人と自然の関わりを知るため「気づき、発見」を大切にした課程です。



フィールド事業

○森を守る里山保全活動 ○市民、企業、団体等多くの主体の体験の場づくり

会員およびグリーンセイバーとともに、各フィールドがその地域との関係・連携を深めながら、地域にとって魅力的な場になるような、活動を提案し取り組みます。

地域に根差したフィールド活動のモデルづくり

それぞれのフィールドの持ち味、強みを発掘し、発信します。
活動のアピール資料をメンバーと共に作成し、活動のメニュー化を行い、新たな主体が活動に参加しやすい体制を作ります。
(目標:新規団体の受け入れを3件以上)

安全対策の強化

「安全」はすべての活動に優先するという考え方を踏まえ、安全対策への意識向上に取り組みます。

- ・安全マニュアルの見直し・リーダーへの周知
- ・緊急連絡体制の見直し・更新
- ・安全講習や安全研修の実施



環境コミュニケーション事業

○多様な主体（自治体・企業・団体）との協働 ○技術・人材の協力

環境NPOとして、様々な主体とつながりながら生物多様性保全や地域づくり、コミュニティづくりを支援します。

企画段階の重視（目指す目標を定め、活動を進める）

従来は、短期的な活動での実施が多い傾向がありましたが、今後は、中長期的な視点で目標到達点（例：活動によって達成される社会的役割、目指す成果等）を設定し、実践・コーディネートを進め継続性のある事業の提案をします。

グリーンセイバーを中心とした体制づくり

企画段階からグリーンセイバーに計画づくりに加わってもらい、依頼団体の担当者との現場での対話からニーズを的確に把握し、活動の成果につなげる体制づくりを目指します。

ネットワークの強化

他団体との交流など機会に積極的に参加し、人脈を広げます。将来的には生まれたネットワークから事業を拡げ協働したプログラムの実施などができるよう団体・個人のネットワークを強化します。

例) 環境教育関東ミーティング、森林と市民を結ぶ全国の集い、NPO多摩源流こすげとの協働プログラム 他



2017年度予算計画

◆収入の部

項目	2016年度実績	2017年度予算	主な活動
会費収入	3,948,000	4,506,000	個人、家族、団体、法人、学生、賛助
寄付収入	2,293,169	2,000,000	個人寄付、あさひアセット、KDDIきぼうのかけ橋、Gooddo、保全活動への寄付 等
事業収入	23,475,650	19,686,000	
内訳) グリーンセイバー事業	3,073,388	3,000,000	グリーンセイバー検定、セミナー、グリーンセイバーによる活動収入
内訳) 環境コミュニケーション事業	8,264,101	8,040,000	企業や他団体との協働活動
内訳) フィールド事業	6,550,305	5,730,000	フィールド活動による収入、企業のCSR活動等でのフィールドでの活動受入れ等
内訳) 海の森事業	5,587,856	2,916,000	海の森公園ボランティア、(海の森倶楽部)
その他収益	58,154	10,000	利息、雑収入
収入計	¥29,774,973	¥26,202,000	

◆支出の部

項目	2016年度実績	2017年度予算	主な活動
総務・管理費	2,341,235	2,627,000	ミーティング、総会、会員管理、日常業務 他
人件費	1,367,703	1,760,000	
事業支出	973,532	867,000	※注
広報	2,412,139	2,472,000	会報誌(印刷製本費、通信運搬費)、ホームページ管理 他
人件費	1,536,230	1,643,000	
事業支出	875,909	829,000	※注
グリーンセイバー事業	3,311,943	3,784,000	グリーンセイバー検定・セミナー、グリーンセイバーによる活動
人件費	1,323,933	1,408,000	
事業支出	1,988,010	2,376,000	※注
環境コミュニケーション事業	6,950,762	7,178,000	企業や他団体との協働活動
人件費	2,652,125	3,000,000	
事業支出	4,298,637	4,178,000	※注
フィールド事業	6,693,696	6,511,000	フィールド活動、企業のCSR活動対応、学校の授業支援 他
人件費	1,403,302	2,799,000	
事業支出	5,290,394	3,712,000	※注
海の森事業	5,301,347	2,916,000	海の森公園ボランティア、(海の森倶楽部) 等
人件費	2,512,518	1,126,000	
事業支出	2,788,829	1,790,000	※注
期首棚卸高	0	0	
期末棚卸高	0	0	
住民税・事業税	150,000	150,000	
支出計	¥27,161,122	¥25,638,000	

※注：事業支出には、事業の直接経費のほか全事業共有経費を分配して合算されています。

前期繰越正味財産	4,258,119	6,871,970
当期正味財産増減額	2,613,851	564,000
正味財産合計	¥6,871,970	¥7,435,970

団体概要

【組織】※2017年3月現在

団体正式名称 特定非営利活動法人樹木・環境ネットワーク協会
 設立 1995年9月19日
 ホームページ <http://www.shu.or.jp/>

【活動内容】

- ①自然生態系との共生に関する環境づくり及び調査研究
- ②自然生態系との共生に関する人材の育成及び国内外のネットワーク構築
- ③その他目的を達成するために必要な事業

東京事務局

[住所] 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6
 日本分譲住宅会館ビル8階南
 [Tel] 03-5244-5447 [Fax] 03-5244-5448
 [mail] info@shu.or.jp

大阪事務局

[住所] 〒576-0033 大阪府交野市私市5丁目17番11号
 [Tel] 072-893-1716 [Fax] 072-892-3247
 [mail] kansai.syu1@nifty.com
 [HP] <http://kansaisyu.o.oo7.jp/index.html>

【事務局スタッフ】

理事長	澁澤 寿一	スタッフ(東京)	後藤 洋一
専務理事	大垣 文義	スタッフ(東京)	田中 麻美
理事・事務局長	石井 玲子	スタッフ(東京)	石崎 庸子
理事・スタッフ(東京)	中西由美子	スタッフ(東京)	村山 忠
		スタッフ(大阪)	山本 睦子

【役員】

役員最高顧問	池田 武邦	
理事(最高顧問)	山本 光二	樹医
理事長	澁澤 寿一	
副理事長	中村 恒明	東京ガス株式会社 環境部長
専務理事	大垣 文義	
理事	川村耕太郎	元東京商工会議所 常務理事
理事	石井 玲子	事務局長
理事	C. W. ニコル	アフアンの森財団 理事長
理事	嶋村 高士	トヨタ自動車株式会社 環境部 ブランド企画グループ長
理事	高橋 敏弘	株式会社高橋総本店 代表取締役社長
理事	田中 常雅	醍醐建設株式会社 取締役社長
理事	飯塚 勇	株式会社丸原ホールディングス代表取締役
理事	渡辺 順彦	株式会社アテナ 取締役会長
理事	稗田 孝志	元和歌山フィールドリーダー
理事	大川 英登	御杖村フィールドリーダー
理事	川端 自人	二宮フィールドリーダー
理事	中西 由美子	グリーンセイバー・マスター
理事	清水 善和	駒澤大学総合教育研究部教授
理事	片山 雅男	夙川学院短期大学児童教育学科教授
理事	塚本 秀貴	グリーンセイバー・マスター
監事	三尾 隆志	公認会計士
監事	吉田 寛	公認会計士 公会計研究所 代表